

橘北地区



【地区の自然環境概要】

橘北地区は、里及び川の要素を持つ地区です。

ミカン畑などの果樹園や玉ねぎ等の畑地、水田や二次林が広範囲で混在し、丘陵地等の里地里山環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。特に沼代地区には棚田が残り、動植物の貴重なすみかとなっています。

東部には中村川が流れ、周辺は河川や河川敷などの水辺環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

水田や畑地、果樹園、二次林、自然林が混在する典型的な里地里山環境があります。良好な田園環境は、その環境のみで生育・生息できる種の貴重なすみかでもあり、大切に守っていききたい環境です。また、里地里山では人間と動植物の関わり合いが重要であり、うまく共存していく必要があります。

- 二次林や人工林を主体とする樹林では、イヌシデやヤブツバキ、クロモジ、ウワミズザクラ等の樹木が見られ、タヌキ等の哺乳類、アオゲラやセンダイムシクイ、ヤマガラ等の鳥類、ジムグリ等の爬虫類、クロアゲハ等の昆虫類などが見られ、樹林環境を特徴づける種が生育・生息しています。また、樹林環境から耕作地を広く生活の場とする猛禽類のノスリ（絶滅危惧種）が生息しており、¹サンコウチョウ（絶滅危惧種）やオオルリ、キビタキ等も生息する環境であり、鳥のホットスポットになっています。²
- 畑地周辺では、スギナやイタドリ（外来種）、スベリヒユ、ホトケノザ等の草本類が生育しています。アズマモグラやタヌキ等の哺乳類、ムクドリ等の鳥類、ニホンアマガエル等の両生類、ヒガシキリギリス等の昆虫類などが見られ、農耕環境を特徴づける種が生息しています。³
- 沼代は、市内で最も良好な水田が広がり、オモダカやコナギ等の水田雑草、トウキョウダルマガエル（絶滅危惧種）やヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエル等の両生類、コオイムシ（絶滅危惧種）やゲンジボタル等の昆虫類、ドジョウ等の魚類などが見られ、良好な水田環境を特徴づける種が生育・生息しています。冬水田んぼもあり、市内では沼代でしか見られなくなった動物もいるとされています。⁴
- 中村川では、アオミズやツリフネソウ等の植物、イタチ等の哺乳類、カワセミ等の鳥類、シマヘビ等の爬虫類、ハグロトンボやツユムシ等の昆虫類などが見られ、河川環境を特徴づける種が生育・生息しています。⁵

¹ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

² 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査

³ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

⁴ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

⁵ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

- 魚類では、中村川下流でニホンウナギ（絶滅危惧種）やボウズハゼ等の回遊性の種が生息しています。中村川中下流では、ボウズハゼやシマヨシノボリ等の回遊性の種が見られるほか、オイカワやタモロコなどの河川中下流域でよく見られる種や、緩い流れを好むドジョウ等も生息しています。⁶



トウキョウダルマガエル

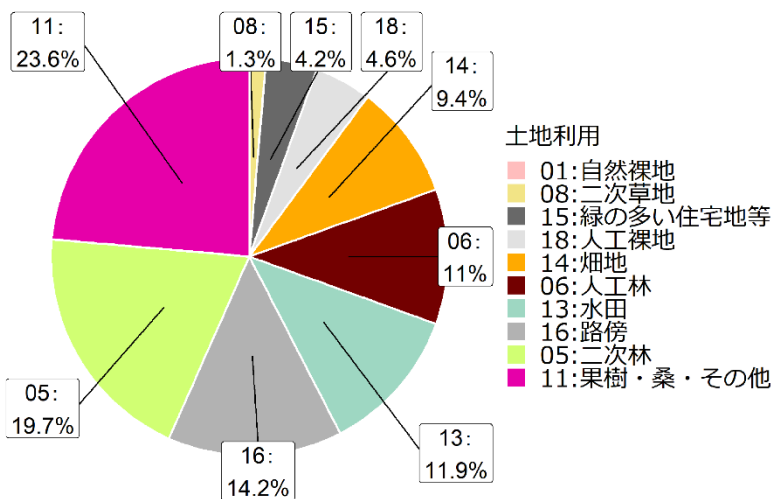


ノスリ

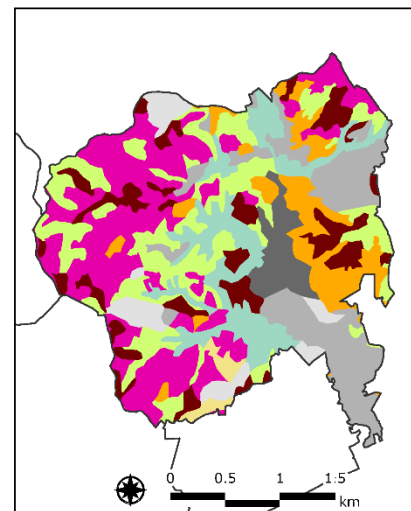


キビタキ

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、果樹園や畑地、二次林、人工林、水田等が混在しており、このような里地里山環境が約7割を占めています。東部は主に路傍や緑の多い住宅地等が占めています。⁷



橘北地区の土地利用割合



橘北地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然鑑賞の場や身近にある緑、食の供給など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **自然観賞の場**：「桜の馬場」は、沼代の鎮守「王子神社」の祭典のおり、奉納されたといわれる競馬の馬場で、直線コースの両脇の桜は春になると見事な桜のトンネルとなります。⁸「桜の馬場」は、桜（ソメイヨシノ）の花や草原の植物、「王子神社」は、スギの大木やシャガ・ホシダ類の草本類の観察にも適しています。⁹

⁶ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

⁷ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

⁸ 出典：小田原ふるさとの原風景百選（小田原市環境部環境政策課，平成 19 年（2007 年））

⁹ 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所，平成 9 年（1997 年））

- **保全活動等の場**：沼代では、曾我山（大磯丘陵）から伸びる細く長い雑木林の尾根が迫る山あいから平地にかけて棚田が続いています。沼代の雑木林に貌まれた坂道からは朱色の柿の実と黄金色の稲穂のコントラストが楽しめます。稲刈りの終えた棚田には掛け干しの柵も続いています。田植えの頃、緑に埋もれる里山の風景は絶景です。¹⁰
- **神社・寺院**：神社や寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。「**白髭神社**」では五穀豊穡を占う祭禮が行われ、古くから生活の営みの心の支えとなるなど自然と深いつながりがあります。

◆「**白髭神社**」

白髭神社は橋地域の総鎮守で元慶元年（877年）の建立と言われる古い神社です。毎年1月7日に古式にのとり行われる奉射祭は、狩衣姿の射者が7矢を射てその年の五穀豊穡の吉凶を占う神事です。¹¹

～**食のつながり**～

- **米**：水田が広がり、食を供給しています。
- **果樹**：果樹園が広範囲に広がり、ミカンなどの季節の味覚を供給しています。
- **農作物**：この地域は、海底が隆起してできた土地のため、自然の恵みによる肥沃の土で育てた「**下中たまねぎ**」は甘みが強く、小田原の特産の一つとなっています。¹²畑地面積は市内でも上位¹³の面積を保有しています。

【**地区で見られる特徴的な自然**】

天然記念物や巨樹・巨木林に選定された樹木など、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **巨樹・巨木林**：「**王子神社**」の次表の樹木は、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査¹⁴で、保全すべき巨樹・巨木林に選定されています。

巨樹・巨木林概要

所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
王子神社	イチヨウ	25	365	平成12年（2000年）
	スギ	30	440	平成12年（2000年）

※出典：第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター、平成13年（2001年））

- **天然記念物**：「**王子神社**」「**広濟寺**」の次表の樹木は、天然記念物に指定されています。

¹⁰ 出典：小田原ふるさとの原風景百選（小田原市環境部環境政策課，平成19年（2007年））

¹¹ 出典：小田原ふるさとの原風景百選（小田原市環境部環境政策課，平成19年（2007年））

¹² 出典：地域別計画 市民の力・地域の力（小田原市，平成23年（2011年））

¹³ 出典：農林業センサス2015

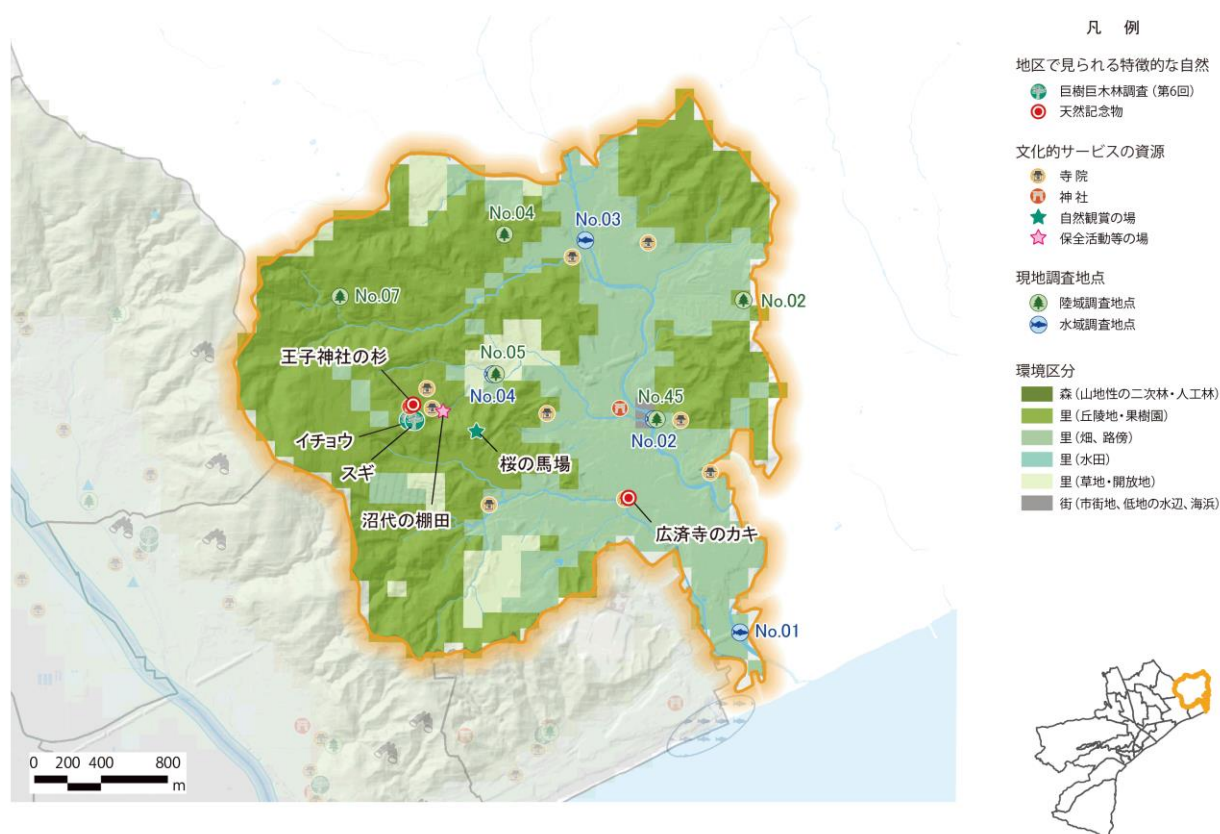
¹⁴ 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査

天然記念物概要

名称	指定	指定年月日	所在地	概説
王子神社の杉	市	昭和56年（1981年）3月30日	王子神社	王子神社の石段を登りつめた所に立っている市内最大級の古木。地上約5mの所から四方に枝を出し、円すい形の杉独特の樹形を整えている。
広済寺のカキ	市	昭和56年（1981年）3月30日	広済寺	広済寺の山門付近に生育し、カキノキとしては、稀にみる大木であり、長い年月を耐え抜いてきた老木。果実は、径5cm程度の大きさの甘柿で、品種は「とやま」と呼ばれている。樹齢は300年を経ているものと推定。 主幹は、根本から数mのところまで、一部を残して丸木舟のように空洞化しているが、広済寺が寛政8年（1796）に火災で焼失した折、カキノキも火にあおられて焼損してしまったためと伝えられている。

※出典：小田原市 HP「天然記念物」をもとに作成 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/natural/>

- **重要地点**：平成29年（2017年）～30年（2018年）に実施した自然環境調査結果の評価・分析を行ったところ、現地調査結果を踏まえ多様性が高いと評価された現地調査地点「**陸域 No.7（沼代の人工林及び二次林）**」、重要種が多いと評価された現地調査地点「**陸域 No.4（沼代の二次林及び農耕地）**」「**陸域 No.5（沼代の谷津）**」、及び重要種が多くかつ多様性が高いと評価された現地調査地点「**陸域 No.1（東ヶ丘の農耕地）**」を将来に渡り守っていくべき重要地点として選定しました。



橋北地区の自然環境マップ